



民家転用型の高齢者通所介護施設の整備方法と避難時の課題解決

総合理工学部 教授 細田 智久、助教 三島 幸子

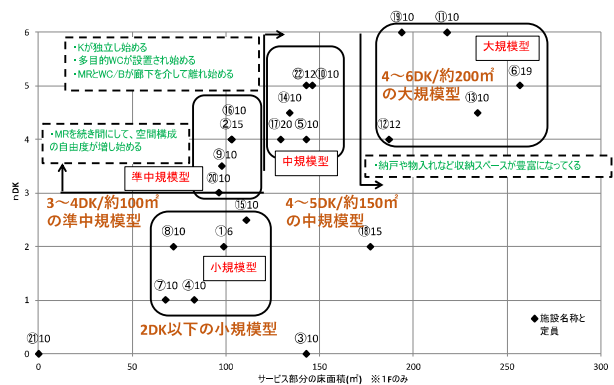
建築デザイン学科の細田・三島研究室は建築計画を専門としており、特に福祉施設や教育施設に関する豊富な研究実績を持ちます。我々が研究フィールドとしている中国地方及び山陰両県は、少子高齢化や空き家の増加において、ある意味で日本の先進地と言えます。

こうした中で、空き家や民家を高齢者の通所介護施設（デイサービス施設）に転用する事例が増えています。家庭的な雰囲気、地域との連携機会の豊富さ、スタッフとの親密な関係性、送迎時間の短さなどのメリットがあります。同時に民家に見られる段差や水回り設備への対処、避難時の対応などに課題も見られます。

民家を転用した高齢者通所介護施設への実態調査を通じて、メリットを高め、課題点を低減する様々な運営上の仕組みや建築的アイデアを収集し、安全安心で利用者やスタッフの方々が笑顔になれる施設づくりの応援をしていきたいと考えています。



山陰両県で22の民家転用型施設



家庭的な雰囲気やスケール感のある空間